

事務事業評価表 平成24年度

政策 環境と調和する都市の構築
 施策 人と地球にやさしい環境の創出
 基本事業 地球環境保全への取組

事業名 **公用車環境負荷軽減事業**

[1037]

部名	総務部	事業開始年度	平成23年度	実施計画事業認定	非対象
課名	契約管財課	事業終了年度	平成23年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>公用車</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>環境に配慮した車両を導入し、公用車が排出する二酸化炭素排出量を削減することができる。</p>
	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>二酸化炭素を排出しない電気自動車を公用車として購入する。</p>
	手段

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	21年度実績	22年度実績	23年度実績	24年度当初
対象指標1	電気自動車台数	台			1	
対象指標2						
活動指標1	購入費用	千円			4,284	
活動指標2						
成果指標1	走行距離	km			1,249	
成果指標2						
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	0	0	4,284	0
正職員人件費 (B)		千円	0	0	401	0
総事業費 (A) + (B)		千円	0	0	4,685	0

費用内訳	
23年度	工事請負費 157千円、備品購入費 4,127千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景	環境負荷の軽減効果が高い電気自動車が市販されたことから公用車に導入し、二酸化炭素排出量の削減をさらに進めることとした。	事業を取り巻く環境変化	
--------	---	-------------	--

23年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

- 義務的事務事業
- 妥当である
- 妥当性が低い

理由・
根拠は？

環境負荷低減を図ることは市の役割である。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

- 貢献度大きい
- 貢献度ふつう
- 貢献度小さい
- 基礎的事務事業

理由・
根拠は？

電気自動車は二酸化炭素を排出しないため、環境負荷を低減できる。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

- あがっている
- どちらかといえばあがっている
- あがらない

理由・
根拠は？

導入してからの走行距離はまだ少ないが、電気自動車で走行した分は、ガソリン車で走行していないため、確実に二酸化炭素排出量は削減している。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

- 成果向上余地 大
- 成果向上余地 中
- 成果向上余地 小・なし

理由・
根拠は？

今後電気自動車で走行する割合が増えれば、二酸化炭素排出量削減が進む。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

- ある
- ない

理由・
根拠は？